

ヘリクリサム シルバーミスト

- 栄養繁殖系品種と比べ、ピンチなしでも自然で美しい分枝が得られる品種。また、作りやすく経済性もある実生ヘリクリサム
- とても勢いのある株が、横張りをしながら美しい草姿を形成する品種。充実した株、そして人目を引くシルバーの葉とステムが印象的
- 葉は手触りのよいだ円の形状で、長径は約 6mm。
- 草丈は 15 から 20cm (花壇定植時)、株張りは直径 45 から 60cm
- イールドポテンシャル(当社における成苗率表示)90%+ の種子を提供
- 播種作業が容易なマルチペレット種子(各ペレットあたり 3 粒)を供給

学名: *H. microphyllum (Plectostachys serphyllifolia)*
種子粒数の目安: 22,750 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。培地の pH は 5.5 から 6.3、EC は 0.75mmhos/cm(1:2)を維持する

播種

シルバーミストではマルチペレット種子(各ペレットあたり 3 粒)を供給。播種時には覆土しない。発芽は 6 から 8 日を要する

温度

発芽適温(6 から 8 日): 22 から 24°C
子葉展開後: 18 から 22°C
本葉展開後: 18 から 21°C
本葉以後: 16 から 18°C

光条件(照度)

発芽時: 不要
発芽後: 10,000 から 30,000 ルクス(1,000 から 2,500 f.c.)
育苗期: 温度条件が適正であれば、54,000 ルクス(5,000f.c.)まで可能

湿度

子葉展開までは相対湿度を 95%に維持する

培地の水分

幼根が現れるまでは培地の水分レベルを高く維持し、幼根が張り出すにしたがって徐々に下げる。培地を乾燥気味に維持した方がプラグの生育は早い。その際に、苗を枯らせないように注意する

肥料

幼根が現れてから 15-0-15 の肥料を 50 から 75ppm(N)の濃度で与え、子葉展開後は 100 から 150 ppm(N)まで上げていく

矮化处理剤(PGR)

矮化剤は不要

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。培地の pH は 5.5 から 6.5、初期の養分は中庸とする

温度

昼間: 18 から 24°C
夜間: 16 から 18°C

光条件(照度)

標準ないし高いレベルで光条件を維持する。照度が高いほど葉色が強い銀葉となり。早春の施設栽培のように光条件が弱い場合は、葉色がグリーンに近くなる傾向がある

かん水

次のかん水までには十分培地が乾くように管理する。午後遅いかん水は避ける。葉が濡れた状態は、ボトリティスなどの病気にかかりやすくなるので注意する

肥料

週に 1 回程度、各栄養素を含んだ汎用タイプの肥料を 200ppm(N)与える。肥料が不足すると、葉が全体的に小さくなったり、下葉に黄化が発生することもある

矮化处理剤 (PGR)

鉢上げの 3 週後に B ナインを 2,500ppm、ボンザイを 30ppm 散布すると、株が全体的にコンパクトに仕上がりと、枝の絡み合い防止にもつながる。また、葉色の発色(銀色)強化にも効果がある

ピンチ

栄養系の品種とは異なり、ピンチは不要である

平均的な生産期間

播種から鉢上げ(288 穴トレイ): 7 から 8 週

鉢上げから出荷 (10cm ポット): 7 から 8 週

ポットサイズ	定植本数	移植から 出荷までの週数
10 から 11cm ポット	1	7 から 8 週間
18cm から 20cm ポット	3	8 から 9 週間

※ 72 穴トレイなどで育苗する場合、播種から移植までの期間は 9 から 10 週となるが、鉢上げ後の生産期間をだいたい 1,2 週短縮することが可能である

病例等

虫害: とくに重大な事例は報告されていない

病気: 株が過湿条件に置かれる場合はボトリティスに注意

ホームガーデナー向けのアドバイス

シルバーミストは、日あたりのよい場所でのミックスコンテナなどの利用に適した品種です。株は通気のよい乾燥した条件を好むので、多雨あるいは湿度の高い条件のもとでの花壇定植には用いない方がよいでしょう

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。